

# 栃木県立学悠館高等学校 JRC(青少年赤十字)部

高校生ボランティア・アワード2020

## 15年の歩みから動き出した新たなステージ —地域と連携した防災活動の新しい形を目指す—

### 活動団体プロフィール

栃木県立学悠館高校は定時制です。JRC(青少年赤十字)部は、学校創立当初より活動を続けてきており、今年で16年目となります。創部3年目の平成19年度から防災活動に取り組みはじめ、現在、部員たちの気づきの中で、活動は周辺地域住民も巻き込みながら大きく発展してきています。

### これまでの本校JRC部の活動の一部(青少年赤十字の実践目標の3つにわけてご紹介)

#### (1) 健康・安全



赤十字救急法の講習会、AED講座等、防災講座を多数実施

防災講座のひとつとして、避難所体験も...

#### (2) 奉仕



- ・募金活動
- ・栃木駅周辺の清掃活動
- ・巴波川清掃
- ・栃木県障害者スポーツ大会
- ・災害時の復興ボランティア(東日本大震災、栃木市大雨災害)

#### (3) 国際理解・親善



校内で集めた文房具 + 色を染めた軍手

ベトナム

タンザニア

トピックアルバム等の送付をおこないました。

### 防災活動を始めたきっかけ(H19)

#### (1) 気づき

登校時に「災害時の避難場所です」の看板が目に入る



他にもいくつかの疑問がわきました。

どれくらいの人達が避難してくるのだろう?!

その後、学校の避難所運営、防災について調べました。

#### (2) 考え

栃木市総務課へインタビュー



インタビュー後、部員で話し合い、防災プランを考える。

防災講座 準備会議を立ち上げる。

本校JRC部が防災活動を始めたのは、本校が避難所に指定されているという先輩の「気づき」からです。登校時に「避難場所」の看板を目にし、「どれくらいの人達が避難してくるか」「学校に避難したら体育館へ行けばいいか」などの疑問を持ったそうです。その疑問を解決するために、学校における避難所運営、さらに防災についてをテーマとして部活動で調べ始めました。東日本大震災発災前より現在まで、先輩の想いを受け継ぎ、避難所体験などの防災講座を地域の方とともに継続して実施しています。現在では、より良い避難所づくりのため、人のためという部員の想いより、非常食の研究、リラクゼーション、避難所運営の工夫なども始めました。

#### (3) 実行する

「もしも、沼和田大地震が起こったら!? ~ぼくたちは考えました~

- ① 学校施設の災害時のわりふり
- ② 本校施設の防災への活用
- ③ 円滑な避難所の運営の工夫
- ④ 私たちの防災についての研修
- ⑤ 周辺住民への防災意識の啓発

#### ① 学校施設の災害時のわりふり



地域の方を招き、作成したプランを防災講座で発表。

#### ③ 円滑な避難所の運営の工夫



避難エリアの案内図や、掲示板を、町内ごとに色分けする等の工夫を考えました。

### H21年度より開始した防災講座は... ~地域の方とともに~

初年度は、外部の先生をお招きして自分たちの研修

- ・「栃木市の防災」市役所総務課
- ・「図上型防災訓練DIG」生活安全防災アドバイザー
- ・「災害時生活支援講習」日本赤十字社栃木県支部
- ・「赤十字救急法講習会」日本赤十字社栃木県支部
- ・「避難所学悠館高校の運営」※JRC部員によるプランの発表

次第に自分たちで伝えたり、また、さまざまな活動を地域の方と重ねました。

- ・H23年度 防災講座「災害時高齢者生活支援講習」
- ・H24年度 防災研修「日赤本社・そなエリア東京」見学 ※日本赤十字社本社、基幹的広域防災拠点施設 有明の丘へ
- ・H27年度 防災研修「日赤本社・本所防災館」
- ・H27年度 防災研修 「宇都宮気象台より気象の専門家を招いて」

最近では、地域だけでなく、全国大会等でも防災活動を発信しています

- ① 「山の日」記念全国大会歓迎フェスティバル
- ② 赤十字キッズプログラム
- ③ 高校生ボランティア・アワード
- ④ 学校安全総合支援事業
- ⑤ とちぎ防災・減災プロジェクトシンポジウム
- ⑥ WEB SOUBUN(2020こうち総文)
- ⑦ 栃木県青少年赤十字大会



### 現在の防災活動~これから目指す新しい形

防災講座を継続して実施しています。特に、避難所体験については、右のように様々な場面を想定しておこなう等の工夫もしています。

また、以下の通り、より良い避難所づくりのための新たな取り組みも始めました。

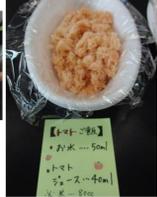
#### より良い避難所づくりのための取り組み

- ① ハイゼックスを用いた非常食の研究
- ② 避難所でのリラクゼーション
- ③ 軍手を用いた避難所運営の考案

#### ① ハイゼックスを用いた非常食の研究

白米のみでは長期間の生活は厳しい

様々な調味料を用いてバリエーションのあるご飯に



#### 避難所体験での工夫

ここ数年で考えて実施した、様々な想定...

- 日本語がしゃべれない方がいたら?
- 障がいのある方がいたら?
- ペットを連れてきた人がいたら?
- 大人だけでなく、子どもが避難してきたら?
- 避難の途中で道に倒れている人を発見したら?

#### ② 避難所でのリラクゼーション

心のケアの必要性

避難所でできるストレッチやマッサージなどを勉強

#### ③ 軍手を用いた避難所運営の考案

避難所運営の際に、その色によって市役所や本校職員などの区別がわかるように、軍手を染色



### 新しい生活様式に合わせた防災活動も目指す!

#### ● 台風19号被災地支援隊によるZoomを用いた「第二回栃木×関西座談会」

R2.9.26

Web上で、  
・近況について  
・現在の栃木市の様子について  
・これからの課題などについて共有し合った。



#### ● 地域の防災マップづくりも始めており...

- ・危険箇所チェック
- ・公衆電話
- ・トイレの設置場所の確認 など

新しい生活様式に合わせた作成した防災マップの発信を目指す!



#### これからの学悠館JRC部

- ・先輩方の想いを受け継ぎ、防災講座や研修を引き続き実施していきたい
- ・子どもから高齢の方、また、様々な状況に置かれた方を想定し、多くの対象の人たちに発信していきたい
- ・防災の大切さや赤十字救急法を、体験やクイズなど、楽しみながら学んでもらえる工夫を自分たちで考え、わかりやすく伝えたい
- ・コロナ禍の今、自分たちにできることを考え、行動したい (ZoomやYouTube等を活用した、新しい防災講座の提案)